

広告

足の血管の病気～静脈がふくれてコブのようになる「下肢静脈瘤」の治療法～



済生会下関総合病院
心臓血管外科

池田 宜孝

■足がむくんだり、足の血管がふくれたりするのは病気なんですか？

足がむくむ事を「浮腫」といいます。浮腫は体内組織において血管から漏れ出る水分と回収される水分量のバランスが崩れることで起こる現象です。

浮腫を起こす病態は多岐にわたります。漏れ出る量が増える病気として、栄養障害、肝硬変、ネフロゼ症候群、感染症、毒素、アレルギー疾患などがあります。また回収が傷害される病態として静脈の灌流障害を来す心不全、腎不全、深部静脈血栓症、慢性静脈機能不全やリンパ液の灌流障害を来すリンパ浮腫などがあります。

病気でなくても、高齢の方に多いのが「廃用性浮腫」です。これは、活動性の低い方が車椅子や椅子に長時間座りっぱなしになり両足がはれてしまうような状態をいいます。動かないことで静脈うっ滞をきたしたため起こった現象で病気ではありません。

一方、足の血管がふくれるのは、多くは下肢静脈瘤という病気です。下肢静脈瘤でも静脈うっ滞をきたすので浮腫をおこすことがあります。

■どんな方が下肢静脈瘤になりやすく、仕事や年齢に関係がありますか？

下肢静脈瘤は非常に身近な病気です。日本全体での患者数は1000万人以上ともいわれています。男性より女性の方が2〜3倍多く、女性の中でも妊娠中や出産を経験した人により多く認められます。また年をとるにつれて静脈瘤の頻度があがります。職業との関係ですが、長時間立ち仕事の方に下肢静脈瘤が多いとされています。家族集積性もあるとされ、患者さんに「自身の親や親族も下肢静脈瘤を患っていた」と教えていただくことがよくあります。

■下肢静脈瘤の病態や症状を教えてください。

下肢静脈がぼこぼこ浮き出たり、へびみたいにくねくね曲がったりする状態を下肢静脈瘤といいます。

症状は、足の血管が浮き出るだけでなく、ふくらはぎがだるい、おもい、むくむやこむら返りなどがあります。うっ滞した状態が進行すると皮膚病変が出現し、湿疹が生じたり皮膚が茶色に色素沈着したりします。さらに進行すると潰瘍と言って皮膚に穴が開いた状態になります。色素沈着以降の皮膚病変に至るまでに専門医に相談すべきです。

ただ、ここで大事なのはたとえ進行したとしても生命を脅かすような症状はありません。エコノミークラス症候群で有名な深部静脈血栓症のリスクも日本人では高くありません。

■検査や診断はどのように行いますか？

通常は下肢静脈の超音波エコー検査を行い、静脈病変を確認します。以前下肢静脈瘤の手術をされていた場合や特殊な下肢静脈瘤の場合は通常と異なり複雑な解剖を呈していることがあります。その際はCT検査や減多におこなっていませんが下肢静脈造影検査が必要なことがあります。

■下肢静脈瘤の主な治療法を教えてください。

下肢静脈瘤のタイプによって治療法が異なります。詳細は割愛しますが、下肢静脈瘤の程度が軽い場合は、医療用の弾性ストッキングを着用する療法や、薬を下肢静脈瘤内に注入する硬化療法があります。弾性ストッキング治療の場合、ストッキングを着用したからといって下肢静脈瘤が消えて無くなるわけではありません。あくまでも、足のたるさやむくみなどを改善させるための方法です。手術をしないかぎり静脈瘤は無くなりません。

比較的進行した下肢静脈瘤で手術が必要となります。手術には大きく分けて血管内治療と病気の静脈を除去するストリッピング手術があります。最近では血管内治療が主流です。

■患者の負担の少ない治療法があるのでしょうか？

先に話した血管内治療が患者の体に負担が少ない「低侵襲」な手術になります。現在、血管内治療には2つあります。1つは逆流している病気の静脈内に焼灼用のカテーテルを挿入し、内側から静脈を焼灼し、静脈を閉塞させ逆流を止める「血管内焼灼術」です。レーザー治療や高周波治療がこれにあたります。もう1つはここ最近の治療法で、逆流している病気の静脈内にカテーテルで医療用の接着剤(グルー)を注入し静脈を閉塞させる「血管内接着剤治療、グルー治療」です。一般的にグルー治療の方が治療中、高熱を伴わないことや麻酔量が少ないことから、より低侵襲とされています。ただ、それぞれの治療には一長一短があり実際に手術を受けられる際は主治医の先生とよく相談して決められるのが良いと思います。

■再発を予防するために生活の中で気を付けることはありますか？

肥満は下肢静脈瘤の誘因になるとされています。バランスのとれた食事は大切です。また激しくない適度な運動も良いとされています。

■最後に、池田先生からメッセージをお願いします。

一番大事なことは「下肢静脈瘤は基本的に命の危険はない」ということを知ることです。学会の公式サイトによれば、残念ながら世間には心ない医療機関があり、ことさら「血栓症」や「潰瘍」のリスクを強調し患者さんを焦らせて必要のない手術がおこなわれるケースがあります。下肢静脈瘤に気づきましたら焦らずに心臓血管外科専門医、脈管専門医といった専門の医師と相談し、自分が納得した上で自分にあった治療法を選択してください。

くにのぶ 内科 循環器内科

院長 國信 卓己

下関市新堀田南町1-13-23
TEL083-251-0092 FAX083-251-0072

くにのぶ訪問看護ステーション TEL083-250-8855
くにのぶケアプランサービス TEL083-242-6688

医療に関する正しい知識の普及に努めてまいります。

企画制作●朝日広告社

足がむくむ、血管が浮き出る それは「下肢静脈瘤」かもしれません

かしじょうみゃくりゅう

下肢静脈瘤は保険適用で治療できます

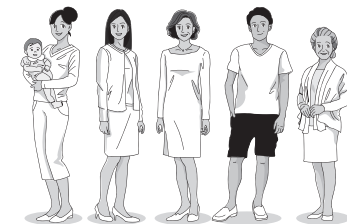
足の静脈の弁が壊れて、足の下の方に血液がたまり、様々な症状を引き起こす病気「下肢静脈瘤」

足がむくむ、疲れやすい、血管がボコボコしている、足がつるなどの症状は、発症のサインかもしれません

ずっと健康な足でいるために、下肢静脈瘤のことを知ってください

知ってください 下肢静脈瘤のこと

<http://think-vein.jp/>



医療法人社団 貴生会
なかはら外科医院
院長 中原 泰生

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
午前9時～午後0時30分	●	●	●	●	●	●
午後2時30分～午後6時00分	●	●	●	休診	●	休診

〈休診日〉土曜・木曜午後休診 日曜・祝日休診

下関市安岡駅前1-10-27
TEL.083-258-0257

循環器内科・内科
長府心臓内科
院長 金原 輝史

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30～11:30	○	○	○	○	○	○
午後 13:30～17:30	○	○	○	—	○	—

※木曜・土曜午後・日曜・祝日 休診

〒752-0977 下関市長府東侍町4-48
TEL.083-245-2919

内科・消化器内科・循環器内科
佐藤 康弘
佐藤 孝志

消化器内科 佐藤 康弘
循環器内科 佐藤 孝志

下関市小月駅前1丁目6-25
TEL.083-282-0137

内科・小児科・胃腸科・循環器科
アレルギー科・呼吸器科

医療法人 やまさきファミリークリニック

理事長 山崎 和夫

下関市新堀田東町2-2-16
☎083-252-7227